

cloud-all クラウドー 連載 7th

大塚商会のサブスクリプションビジネスサポート

AzureでNASのバックアップをやってみた!

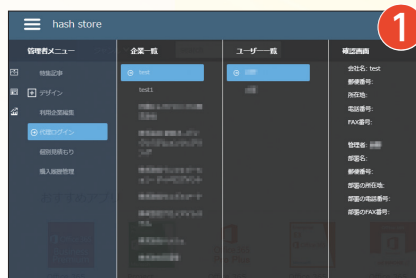
オンプレミス環境に馴染んでしまうと、クラウドへの移行にはどうしても抵抗感を持ちがちだ。その背後に「クラウドは利用手順が複雑で分かりにくい」という先入観があることも否定できない。だが、クラウドは本当に複雑で分かりにくいのだろうか? オフィスのクラウド化の第一歩であるNASバックアップに、実際に挑戦してみた。

Step1 クラウドーのコマースサイト

エンドユーザー様に代わって
Azureを購入する

今回はパートナー様がエンドユーザー様の作業を代行するという前提で、BPナビゲーター編集部のNASをMicrosoft Azureによるバックアップにて試すことにした。この場合、パートナー様は自社のクラウドーコマースサイトにログインした上で、エンドユーザー様のストアに代理ログインすることが必要だ。ストア画面①左の管理者メニューの「代理ログイン」をクリックし、「企業一覧」「ユーザー一覧」の順に進みエンドユーザー様を選択して代理ログインを行う。トップ画面に戻り、クラウドーが

提供する各種サービスからMicrosoft Azureを選択すると、顧客情報の登録画面②に切り替わる。ここで契約先エンドユーザー様の住所及び担当者様の連絡先を入力するとMicrosoft Azureの購入手続きは完了だ。直後に発注内容を確認する内容のメールと、利用開始準備が整った旨を伝えるメールが登録したアドレスに送られてくる。



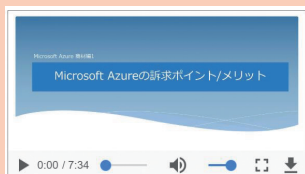
今回はパートナー様の代理ログインでの操作を想定している。

購入には詳細な顧客情報の入力が必要となる。

クラウドー動画コンテンツ cloud-all Video content

●Microsoft Azure 商材編 ① Microsoft Azure

マイクロソフト社が提供するパブリッククラウド「Microsoft Azure」の概要に加え、4つの活用パターン、さらにターゲットについてご紹介します。



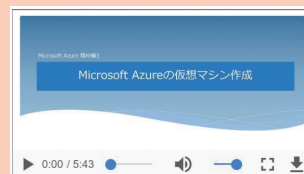
●Microsoft Azure 商材編 ② Microsoft Azureの料金計算見積もり

Microsoft Azureの料金計算見積もりを行うにあたって必要となる、最新価格の調べ方や、見積もりで用いるサイトの使い方などを解説します。



●Microsoft Azure 商材編 ③ Microsoft Azureの仮想マシン作成

Microsoft Azureでは、OSなども自由に選べる仮想マシンをクラウド上に構築することができます。ここでは実際に仮想マシンを作成するための手順をご紹介します。



Step2 Azureポータル

ストレージアカウントを作成し アクセスキーを取得する

次にAzureストレージアカウントを作成する。Azureポータルにアクセスした後、画面左上の「リソースの作成」③「Storage」[ストレージ アカウント]を順にクリックし、ストレージアカウントの作成画面④に進む。ここで行う設定を項目別に整理しておこう。

- ・名前…ストレージアカウントの表示名を設定する。分かりやすい名前を選んだ方がいいだろう。

- ・デプロイモデル…展開方法を選択する。管理の簡便性という観点から「Resource Manager」が推奨されている。

- ・アカウントの種類…汎用とBLOBが選べる。データバックアップを目的とする今回は、大量データの書き込み・読み出しを得意とするBLOBを選択。

- ・場所…プライマリのデータセンターが存在するリージョンを選ぶ。編集部が東京にある関係上、「西日本」を選択。

- ・レプリケーション…可用性のレベルを選択する。今回はプライマリ・セカンダリの2リージョンに複製を保持し、セカンダリのデータにもアクセスできる「読み取りアクセス地理冗長ストレージ(RA-GRS)」と

いう最も可用性が高いレプリケーション方法を選択。

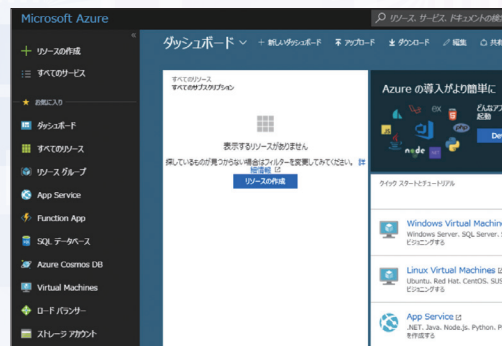
- ・パフォーマンス…「Standard」=磁気ディスク、「Premium」=SSDのいずれかを選択。

- ・アクセス層…アクセス頻度が高いデータ向けの「ホット」、アクセス頻度が低いデータ向けの「クール」のいずれかを選択。データバックアップの場合、「クール」を選択。

- ・安全な転送が必須…暗号化の有効・無効を選択する。データバックアップを目的とした今回は、HTTPS/HTTP通信の転送が可能な「無効」を選択。

なおリソースグループは、初めて作成するため「新規作成」を選択した。最後に「作成」をクリックすると、ストレージアカウントが作成される。

次にストレージにアクセスす



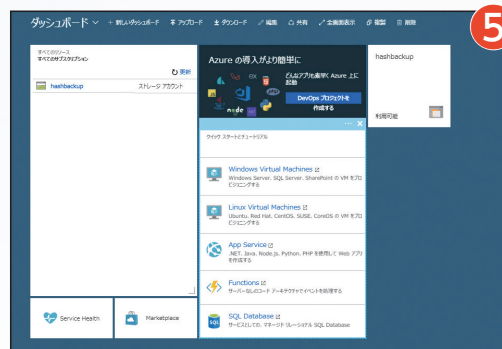
最初にログインした状態は、ダッシュボードにリソースは表示されていない。

る際に必要になる「アクセスキー」を取得する。まずAzureポータル画面⑤左の「ダッシュボード」、今回作成したストレージアカウントの順にクリックし詳細画面⑥を開く。画面左の「アクセスキー」をクリックすると、認証用のアクセスキーが表示される。ここまでがAzureポータルで行う作業になる。

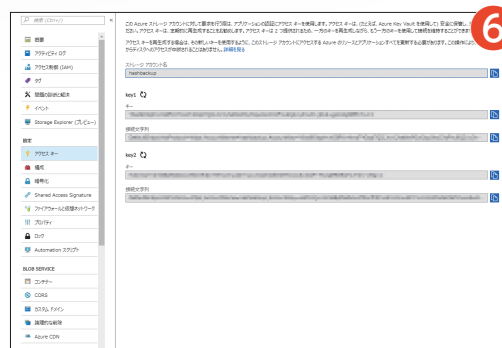


「リソースの作成」→「Storage」→「ストレージアカウント」を選択。

ストレージアカウント作成画面で細かな設定を行う。



ダッシュボードに先ほど作成したストレージが表示された。



アクセスキーは2系列用意され、どちらも利用可能だ。

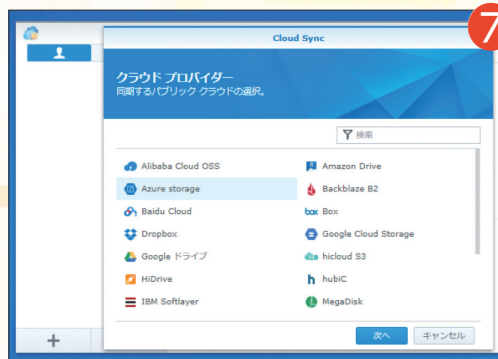
Step3 NASコントロールパネルの操作

バックアップ先にAzureを選択し
オンプレミスと同じように設定を行う

次にNASバックアップ先としてAzure Storageを設定する。編集部ではSynologyのNASを使用しているため、ここからはそのコントロールパネルで作業を行う。メインメニューでクラウドバックアップを選び、クラウドプロバイダーの選択画面⑦に進む。Azure Storageを選択し、設定画面⑧でストレージアカウントとアクセスキーを入力する。そこから先は、基本的に通常のバックアップ設定と同じ手順を踏むことになる。設定を終え、「適用」をクリックするとすぐに同期がスタートした。I O DATAやBUFFALOのNASも、Azure Storageによるクラウドバックアップ対応しているため、基本的なやり方は同様になるはず

だ。ここまでの所要時間は、ストレージアカウント作成の待ち時間を含めて約1時間弱。ハードウェアの手配など物理的

なプロセスが不要で、ブラウザ上の操作だけで簡単に遠隔地バックアップが実現してしまうことに改めて驚かされた。BP



7 NASの設定画面では、Azure Storageを選択する。



ストレージアカウントとアクセスキーを入力する。

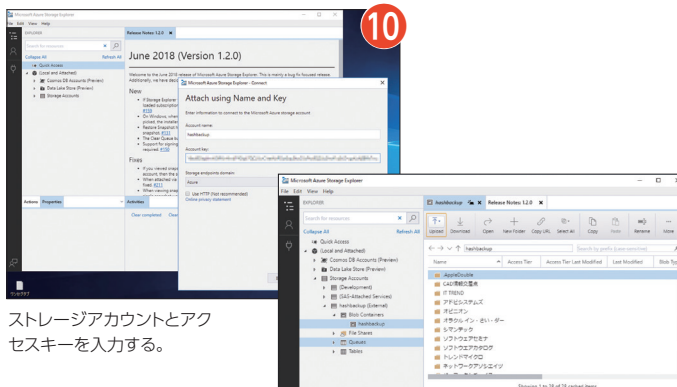
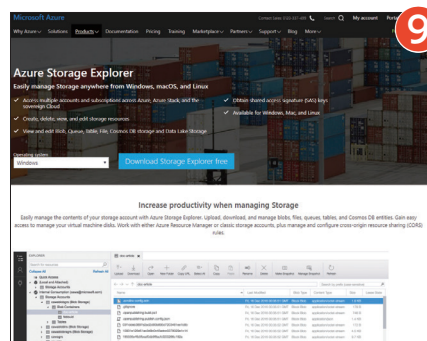
Plus ONE

バックアップデータのダウンロードは専用管理ツールで行う

最後にAzure Storageにアップロードしたバックアップデータの、ダウンロード方法にも触れておきたい。Azure Storageのコンテンツ管理はAzure Storage Explorerで行うことが一般的だ。

その手順は以下の通り。まずダウンロードサイト⑨にアクセスし、Azure Storage Explorerをダウンロード、デバイスにインストールする。Azure Storage Explorer⑩を起動し、画面左のプラグ型アイコンをクリックすると、Azure Storageへのコネクト方法を選択する画面がポップアップする。「Use a storage account name and key」を選択し、ストレージアカウントとアクセスキーを入力すると、画面左のツリーに新たなストレージアカウントが表示される。

Azure Storage Explorer
ダウンロードサイト
<https://azure.microsoft.com/ja-jp/features/storage-explorer/>



ストレージアカウントとアクセスキーを入力する。



クラウドーる動画コンテンツ cloud-all Video content

●トレンド市況編①
クラウド利用の重要性



●トレンド市況編②
働き方改革とセキュリティ



●トレンド市況編③
クラウドコンピューティングとは



●Office 365 商材編①
Office 365とは



●Office 365 商材編②
Office 買うなら365



●Office 365 商材編③
OneDrive for Business



●Office 365 商材編④
Exchange Online



●Office 365 商材編⑤
SharePoint Online



●Office 365 商材編⑥
Skype for Business Online



●Office 365 商材編⑦
Microsoft Teams



●クラウドーる編①
CSPのご紹介



●クラウドーる編②
クラウドーるのご紹介



●クラウドーる編③
クラウドーるコマースプラットフォームストア概要



●クラウドーる編④
Office 365のプラン選定について



クラウドーる資料ダウンロードサイトへのアクセス方法

本格始動した「クラウドーる」に今年5月、資料ダウンロードサイトが新設された。マニュアルや規約、価格表、各種申請書などがダウンロードできる同サイトで、特に確認したいのが「即座にセールスに活用できる」提案資料のコーナー。A4チラシや提案用に分かりやすくまとめられた詳細資料、導入事例などの充実した資料は注目に値する。クラウド商材セールスのヒントとしてぜひ活用したいところだ。ストア開設済みのパートナー様にはご案内が届いているはずだが、誌上でも資料ダウンロードサイトへのアクセス方法を紹介したい。

① ログイン後
画面右上の「？」を開く

② 「各種資料はどこに掲載されていますか？」を展開し、URLをクリックするとサイトにアクセスできる

クラウドーる
資料ダウンロードサイト

NEWS & TOPICS

- 2018.07.10 Office for Business Online プラン1 サンプルのダウンロード
- 2018.07.08 各プランの料金表についてのご案内
- 2018.05.30 9月30日までのシステムアップグレードに伴い、ご利用のサイト等の利用をアップグレードしました。

連絡先: 03-5561-1111